

利用者のニーズに応じたバス交通のコスト削減方策に関する研究 ～宮崎県串間市『よかバス』をケーススタディとして～

中央コンサルタンツ株式会社福岡支店 正会員 ○松永 圭一郎
中央コンサルタンツ株式会社福岡支店 正会員 八重尾 恭彦
宮崎県串間市総合政策課企画統計係 非会員 高橋 一哉

1. 研究の背景と目的

宮崎県の最南端に位置する串間市では、H15に不採算等を理由に路線バスが廃止され、小型車両による廃止代替バスが運行されていた。しかし、利用者の減少と市の負担額の増加が続き、H19年度には約2,000万円の行政負担が生じていた(図-1)。また、宮崎県はH20年度を最後に、赤字額の1/2を補助する制度の廃止を決定していたことから、生活交通としてのバス運行を今後も維持していくため、既存の公共交通システムの抜本的な見直しが必要とされていた。

このような状況の中、串間市はH19年度にバス交通の維持に向け、ニーズ調査等を基に運行の再編計画の検討を行い、H20年10月に新たなバス交通としてコミュニティバス『よかバス』(以下『よかバス』と言う)の運行を開始した。

以上の背景を踏まえ、本研究では、串間市の『よかバス』を事例として、利用者のニーズに対応した上で、コストを抑制する運行計画の策定方法を明らかにする。また、運行開始前後の変化や導入後のアンケート調査を通じて、導入した運行計画の有効性を検証する。

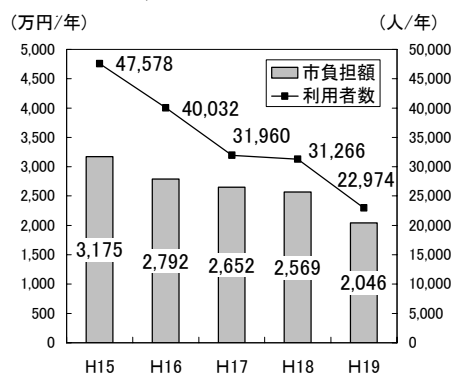


図-1 バス交通への市負担額・利用者数の推移

2. 公共交通の現況

串間市のバス交通の運行路線および利用者の推移を図-2に示す。公共交通としてJR駅が4駅あり、中心駅であるJR串間駅を発着する廃止代替バス9路線が、各地域に向けて毎日運行されていた。

廃止代替バスは、廃止前の路線バスの運行ルートおよび距離制運賃を継承し、1日あたり1～3往復、10人乗りと4人乗りタクシーそれぞれ2台の計4台で運行されていたが、利用者は年々減少傾向にあった。

H19年度(H18.10月～H19.9月)の負担額は年間約2,000万円であり、近年減少傾向にあったが、同時に利用者も減少を続けており、今後のバス交通の維持が懸念される状況にあった。

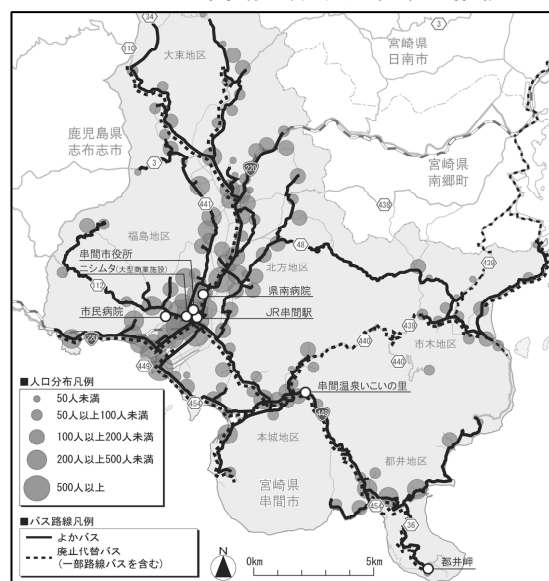


図-2 バス交通の運行路線および利用者数の推移

3. 廃止代替バスの利用実態および利用者ニーズの把握

(1) 廃止代替バスの利用実態

市民の廃止代替バスの利用実態・利用者ニーズを把握するため、全世帯を対象にアンケート調査を実施した(回収数2,011世帯、回収率28.7%)。

アンケート調査結果を見ると、廃止代替バスの利用者がある世帯は13%であり、利用者の85%が週に2回以下の利用となっていた(図-3)。また、図-4に示す通り利用目的は通院が62%を占めていた。

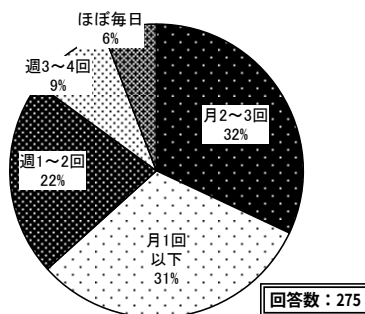


図-3 廃止代替バスの利用頻度

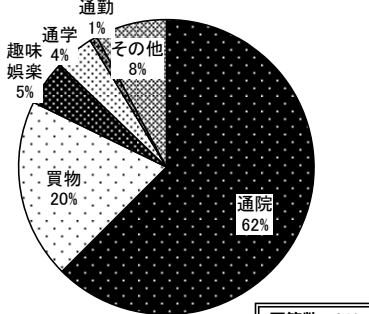


図-4 廃止代替バスの利用目的

キーワード コミュニティバス、運行計画、コスト削減、高齢者、通院

連絡先 〒810-0062 福岡市中央区荒戸1丁目1番6号 中央コンサルタンツ株式会社福岡支店 TEL092-722-2541

(2) 新たなバス交通に対する意見・要望

新たなバス交通に対する意見・要望を図-5に示す。要望としては「便数の増加」、「運賃の値下げ」が多く挙がっていたほか、4人乗りの小型タクシー車両が使用されていたことから、「定員数の増加」が挙がっていた。

また、発着地がJR串間駅となっており、市内の主要な医療施設である串間市民病院や県南病院に行くためには乗換えが必要となっていたことから、これらの医療機関へのアクセスの改善が求められていた。

4. 『よかバス』運行計画の策定

3の調査結果を踏まえ、利用者のニーズに対応した上で、バス交通に対する市の負担額を抑制するためには、現在の利用状況に合わせ、毎日運行から曜日別運行とすることが必要であると考えた。一方、単純な運行日数の削減のみでは利便性が大きく低下すると考えられたため、以下の施策により利便性の向上を図った。表-1にて再編前後の運行条件を比較する。

- 1) 発着地をJR串間駅から串間市民病院へ移行することで通院ニーズに対応。
- 2) 買物ニーズに対応し、主要な商業施設等を経由する市街地循環路線を導入。
- 3) 交通空白地への運行を行い、串間市内における交通サービスの格差を解消。
- 4) 10人乗り・ノンステップ車両など高齢者にも利用しやすい車両を導入。
- 5) 利用者の経済的な負担を軽減するため、最大960円の距離制運賃を各集落までは200円、循環路線100円、1日フリーパス400円という低廉な料金に変更。

以上の運行計画を策定し、H20.10月より『よかバス』の運行を開始した。

5. 『よかバス』運行開始前後の変化

廃止代替バスおよび『よかバス』導入前後のバス利用者数および市負担額の推移を図-6に示す。『よかバス』の運行により、導入前は1,400人/月程度であった利用者数が、約3割増加し、約1,900人/月となっている一方、市の負担額は年間約2,000万円から約1,800万円(試算結果)へと削減された。導入後に実施した調査においても、多くの利用者がバス交通以外の交通手段から『よかバス』へ転換しており、高い満足度を得ている(図-7, 8)。

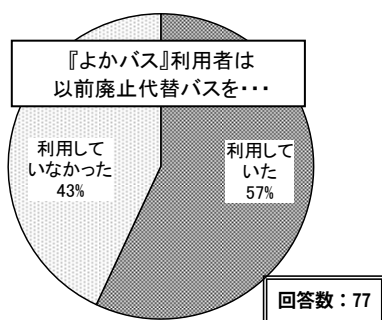


図-7 バス交通への転換

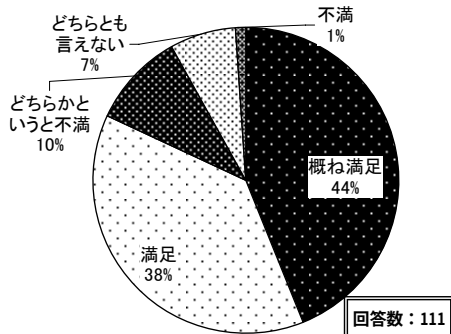


図-8 『よかバス』への満足度

6. まとめ

本研究により、利用者のニーズに応じた運行を行うことで、利便性を向上させ、運行日数の削減等により運行経費を削減できることが確認された。

一方、導入後の調査結果において、導入前に比べて買物を目的とした利用が増加しているなど、導入前に想定していたニーズのみではなく新たな利用が増加していることから(図-9)、今後ダイヤや運行ルート等の検討を行い、より利用者のニーズに対応した形へと再編を行っていく予定である。

参考文献 1) 宮崎県串間市、平成19年度串間市地域交通計画書、2) 宮崎県串間市、よかバス導入後調査結果

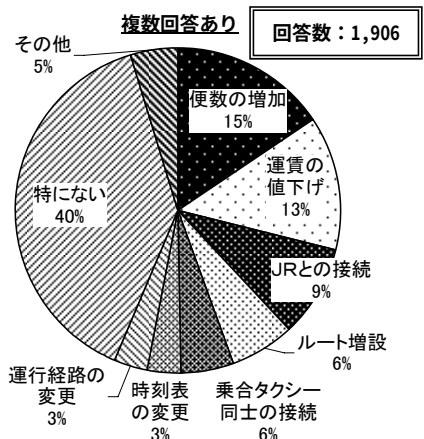


図-5 改善要望点

表-1 運行条件の比較

廃止代替バス (再編前)	項目	『よかバス』 (再編後)
9路線	路線	15路線
あり	空白集落	なし
毎日	運行日数	集落線: 週1~2日 (都井岬線のみ毎日) 循環線: 5日
10人乗り2台 4人乗り2台	車両規格	15人乗り3台 31人乗りバス1台
JR串間駅	発着点	串間市民病院
距離制 (最大960円)	料金	集落線: 200円 循環線: 100円 フリーパス: 400円

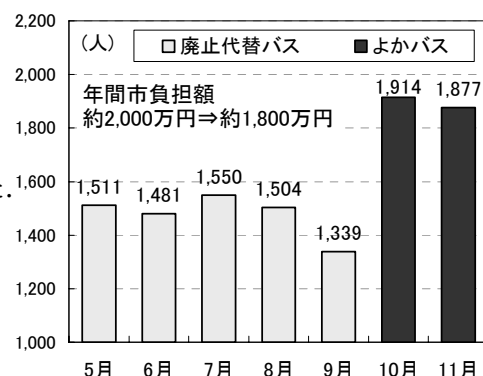


図-6 バス利用者数の推移

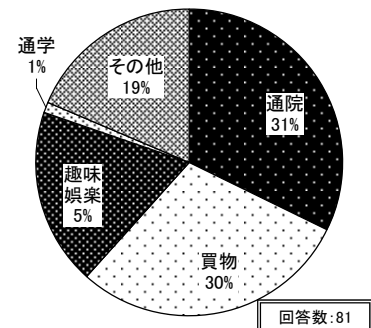


図-9 『よかバス』の利用目的